

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟（理学療法士）

回復期リハビリテーション病棟の理学療法士とは

回復期リハビリテーション病棟における理学療法では、急性期治療終了後の患者様に対して、基本動作能力（寝返り・起き上がり・立ちあがり・歩行など）と、応用的な移動能力（階段昇降や屋外歩行など）を獲得し、日常生活動作向上による寝たきりの防止や在宅復帰・社会復帰を目指します。当院の各セラピストは、リハビリ室での練習だけではなく、病棟内で患者様の食事・入浴・トイレなどの各動作を直接評価し、問題点をみつけ練習しています。患者様が入院生活をされている場所で練習をすることで、早期の動作獲得、在宅復帰に繋がります。



また、住宅改修の提案や、ご家族様への介助指導にも力を入れ、退院後も運動機能が維持、向上できるよう支援させていただきます。



気づきの医療を目指して

当院の理学療法士は、広い視野を持つために理学療法士資格に加え、認定理学療法士（脳卒中、運動器、地域理学療法）、呼吸療法認定士、栄養サポートチーム専門療法士など、様々な資格を持ったスタッフがいます。

1つの視点で病気や怪我のリハビリをするのではなく、様々な知識と専門性をもって対応することで多くの気づきがあり、より良いリハビリテーションを提供できると考えています。



認知症治療病棟

< ダイバージョナルセラピー（Diversional Therapy）のご紹介 >

当院では認知症治療病棟の治療の1つとして、月に1回程度、NPO法人 日本ダイバージョナルセラピー協会理事 芹澤隆子先生にご指導頂きダイバージョナルセラピーを実施しています。

ダイバージョナルセラピー（DT）とは、オーストラリア生まれの医療・保健・コミュニティの環境の中で、レジャーとレクリエーションに関する活動を実施するセラピーです。

日本DT協会では、DTの定義を「個々人の独自性と個性を尊重し、1人1人がより良く生きる事を目指し実践する機会を持てるようサポートし、自分らしく生きたいという要求に応える為、『事前調査→計画→実施→事後評価』のプロセスに基づいて、各個人の“楽しみ”からライフスタイル全般までそのプログラムや環境をアレンジし提供する前人ケアの思想と実践である。」としており、老いることを耐える事ではなく、老いることを楽しむという視点を大切にしています。



芹澤 隆子先生



お月見をテーマに歌と回想

キーワードである ①レジャー ②ライフスタイル ③チョイス ④コミュニケーション をベースに、様々なプログラムがDTにはありますが、当院では主にSONASセッションとセンサリーアプローチを中心に患者様にDTを実施しています。

SONASセッションとは、10名前後のグループで行うコミュニケーションと感性へのアプローチであり、音楽・感触・香り・軽い運動等を含むあらゆる感性を刺激するプログラムとなっています。センサリーアプローチとは、重度の認知症患者様に対して非日常的な空間にて五感にこころよく働きかけることで心身の安らぎや活性化を図るアプローチとなっています。



院内感染防止対策委員会

インフルエンザに注意しましょう！！

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる感染症です。インフルエンザにかかると、急な発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状が強く現れ、鼻水、咳、のどの痛みなどの症状もみられます。高齢の方、持病を持つ方、妊婦、乳幼児がインフルエンザにかかると、気管支炎や肺炎を併発し、重症化すると最悪の場合 死に至る事もあります。インフルエンザ流行前の予防と流行時期には感染しないように日常生活でも注意していきましょう。



インフルエンザの予防

最大の予防法は流行前にワクチンの接種を受ける事です。ワクチンの接種で感染しにくくなり、かかったとしても軽い症状で済むことが証明されています。ご家族に高齢者や妊婦、乳幼児がいる場合には家族からの感染を防ぐためにも家族皆様でワクチン接種を受けましょう。



日常生活では、

- ① 帰宅時には、しっかりと手洗い・うがいをしましょう。
- ② 栄養と休養を十分にとりましょう。
- ③ 鼻水・咳等の症状があるときには、マスクをつけましょう。



当院では感染症流行時期のご面会の際には、擦式アルコール製剤での手指消毒とマスクの着用をお願いしています。また、発熱・咳などの風邪症状のある方、下痢や吐き気などの消化器症状のある方、周囲にインフルエンザに感染している方がいる場合はご面会をご遠慮頂いています。

また職員への院内感染防止の取り組みとして、手指衛生の徹底、マスクや手袋等の个人防护具の着用、予防接種の実施、体調チェックなどを行っています。感染症流行時期には、入院患者様やご家族様、面会者の皆様にも御協力をお願いし、昨年は11月～3月まで面会制限受付を設置しました。今年度も感染防止のため実施を予定していますので、御協力よろしくお願い致します。

管理栄養委員会

サルコペニアの予防が重要！！

リハビリテーションを行う高齢者では、脳血管障害による嚥下障害や認知症による摂食障害等により低栄養とサルコペニアを合併するリスクが高いと言われています。たとえば、施設別に低栄養の高齢者の割合を調査したもので、病院 38.7%、老人ホーム 13.8%、在宅 5.8%、リハ施設 50.5%と言われております。

低栄養とサルコペニアはいずれもリハビリの効果に大きく関わります。低栄養の患者様に栄養を考えずにリハビリだけ行っても、十分な効果が得られないどころか逆効果になることさえあります。そのため、回復期のリハビリを行う高齢者に対しては、身体機能を最大限に高めるために、リハビリだけでなく、栄養管理をしっかり行う事でより身体機能の改善に役立ちます。

サルコペニアとは？

低栄養により進行するものであり、骨格筋量の減少から、筋力低下や、歩行速度の低下が起きます。

進行すると、日常生活に様々な制約が生じ、介護量の増加や転倒・骨折にも繋がるものとなっています。



当院では、日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)、日本栄養療法推進協議会(JCNT)によるNST稼働施設認定を取得しております。



糖尿病教室

7月20日（土）に当院にて糖尿病教室を開催しました。

糖尿病の治療の基本は、食事療法・運動療法・薬物療法であり、これらの治療を継続していくことが重要となってきます。さらに糖尿病が進行することで、目、腎臓、心臓、脳、歯周病、神経障害などの全身の障害が起こり、さまざまな症状や病気を発症します。

今回は、糖尿病の管理、治療、予防、教育において家族の役割が重要であるため、開催テーマ「糖尿病治療の重要ポイント」を中心に、医師・薬剤師・栄養士からお話しさせていただきました。

血糖・血圧・体重をコントロールにすることにより、病気の進行を防ぎ合併症を予防できますが、そのためには日常生活での食事や運動が重要なポイントとなってきます。

糖尿病治療薬については、“薬の作用”“低血糖”“副作用”“服用時”の注意事項などを、一覧表を用いてお話ししました。

栄養については、食事の基本である“腹八分目”“ゆっくり良く噛んで食べる”“食べる順番（野菜→汁物→メイン→ご飯）”“朝食を欠かさない”などを振り返ってもらいました。「1日野菜350g」を実際に計量し見てもらうことで、食生活に上手に取り入れ続けて頂ければ幸いです。



また近年災害が多く見られますが、災害時には、服用している薬やインスリン注射、お薬手帳、低血糖時のブドウ糖の備えが重要です。



「1日野菜350gが目標」

健康教室

香川県理学療法士会健康増進部様からの依頼で健康教室を行いました。



日時：2019年7月12日（金）10:00～11:00

場所：山本西公民館（三豊市）



講義内容は転倒予防でした。

参加者は21名で、30分程度の座学に加え、畳上や椅子に座ってできる体操も実施しました。

山本西公民館は当院から非常に近いのですが、今回が初めてでした。とても元気なサロンでした。

日時：2019年9月4日（木）10:00～11:00

場所：三谷公民館（三豊市）



講義内容は転倒予防でした。

参加者は16名で、20分程度の座学に加え、畳上や椅子、立位でできる体操を実施しました。

運動を中心に実施しました。大変暑い中でしたが、みなさん一生懸命、楽しんで取り組まれました。

回復期リハビリテーション病棟 納涼祭

今年の夏は連日暑い日が続きましたが、橋本病院では暑さにも負けず、夏を楽しむイベントとして8月21日（水）に納涼祭を開催しました。

各病棟工夫を凝らし、魚釣りやボール投げ、ゼリー作りなどの催し物を行いました。夏を感じ、夏の暑さを忘れられるようなひとときとなりました。



魚釣りやゼリー作りでは、入院時には思うように体が動かず立つことができなかった患者様が、毎日のリハビリに取り組むことにより、自らの足で立ちゼリー作りや魚釣りを笑顔で行うことができ、日々のリハビリの成果を発揮することができました。患者様に楽しんで頂きながら、夏の暑さを忘れることができました。



ボランティア

7月27日（土曜日）三豊中学校の生徒さん3名が認知症治療病棟へボランティアに来てくれました。

慣れない環境の中、お風呂への誘導や入浴後の患者様の髪を乾すお手伝い等をしてくださいました。患者様も可愛い生徒さんを話し相手に会話を楽まれ、和やかな雰囲気でした。



今回のボランティアを機に、看護・介護の仕事に興味を持って頂き、看護師や介護福祉士の道を目指して頂ければと思います。

橋本病院では、中高生を対象に年に1度『ふれあい看護体験』を6月頃行っています。興味のある方は是非ご参加ください。

またボランティアも随時受け付けておりますので、お気軽にお声掛けください。



普通救命講習

普通救命講習を7月18日（木）に開催しました。

当院では毎年普通救命講習を実施しています。

今回は三観広域消防第二分署所属の消防士、救急救命士2名の方を講師として、新入職員を主に12名が参加しました。

初めにDVDで緊急場面・講習の必要性を確認し、その後、

① 発見・確認・通報～心臓マッサージ・意識確認・呼吸確認・環境確認・

119番通報心臓マッサージ（30秒間）・2回の人工呼吸の手順、方法など

② AED使用練習 ③応用練習：患者発見からのAED使用まで／模擬的場面で実践

④ その他：救急対応・止血・窒息対応 を学び、全員が3時間の講習を修了しました。



訪問リハビリテーションセンターはしもと

訪問リハビリの役割

当センターでは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、日常生活の自立や趣味の再獲得、利用者様のライフスタイルに合った生活目標を立ててリハビリを提供しています。

生活目標を立てるうえで大切にしていることは、利用者様の「したいこと」に寄り添うことです。

実際に自宅で生活してみると、入院中には気づかなかった問題点や悩みが出てくる場合があります。利用者様とご家族様が安心して暮らせるように、健康状態や運動能力、環境なども含めて具体的な目標を一緒に検討していきます。また利用者様の生きがいや役割となる活動をとともに考え、本人が主体的に選択し生活できるようにサポートしていきます。

① 自主トレーニングの提供



手や足の筋力トレーニング

② 動作訓練

実際の道具を使いながら練習



調理動作練習

掃除練習

③ 環境調整

(道具を使う、やり方を変える)

道具や環境面での工夫



片手用調理台



滑り止めの活用

事務部

特定健康診査について

2019年度特定健康診査の実施期間が2019年10月31日までとなっております。まだ受診されていない方は三豊市・観音寺市の指定医療機関で受診できます。

受診の際には5月下旬に市町村より届いている水色の封筒と健康保険証を必ずご持参ください。

10月からの料金変更のお知らせ

消費税増税に伴い下記の料金に変更になります。

- ・各種健康診断（個人・企業等）
- ・各種診断書
- ・洗濯代（外注）
- ・濃厚流動食 等

* ご不明な点は受付窓口までお問合せください。

2019年10月より インフルエンザ予防接種が始まります

インフルエンザについて

インフルエンザは、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。子どもではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。

「インフルエンザの定期予防接種について」

定期の予防接種の助成対象者は以下の方です。

① 満65歳以上の方

② 満60歳から64歳で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障がいがある方（身体障害者手帳1級相当）

* 予診票の配布方法は各市町村によって異なります。詳細につきましてはお住まいの市町村までお尋ねください。

ご希望の方は、当院受付窓口又はお電話にて予約を承っております。お気軽にお問い合わせください。



地域連携室

2013年12月1日から行っている**事前訪問**（当院転院前に患者様が入院されている病院へ直接訪問し、心身状態の把握や入院についての説明等を実施）の2019年7月～8月の回復期リハ病棟の実績を紹介します。

- 1ヶ月の訪問件数：7月【22件】、8月【27件】
- 入院されている病院から紹介状が届いて訪問するまでの平均日数：7月【3.6日】、8月【3.5日】
- 紹介状が届いて当院へ転院されるまでの平均日数：7月【7.8日】、8月【9.3日】

※事前訪問後、当院へ転院されるまでの平均日数は4.6日（1～12日）です。**大変お待ちしておりますし申し訳ございません。**

対象となる方

1. 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態から2ヶ月以内。高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸随損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の発症から2ヶ月以内。
2. 多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折もしくは手術後から2ヶ月以内。
3. 外科的手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後から2ヶ月以内。
4. 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は関節の神経、筋又は靭帯損傷後の1ヶ月以内。
5. 股関節又は膝関節の置換術後の状態の1ヶ月以内。

リハビリは 365日、1日3時間

提供させていただきます。
また、多職種によるチーム医療で、早期に退院できるように取り組んでいます。



入院相談はお気軽にご連絡ください！

橋本病院 地域連携部

窓口：大西 宏美

電話：0875-63-3552（直通）
0875-63-3311（代表）



認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。お気軽にご連絡ください。

移動も安心のサービス

転院の際の無料送迎をしております。ご希望の方はお気軽にお申し出ください。



地域連携部

<新メンバーのお知らせ>

2019年7月1日より地域連携部へ配属されました、言語聴覚士の白川 卓（シカク たく）と申します。配属前は、回復期リハビリテーション病棟で約12年間勤務しておりました。7月8月と2ヶ月間の研修期間を経て、9月1日より本格的に地域連携部の一員として活動しております。病棟と地域連携の畑は違いますが、同じ医療の現場としてこれまでに得られた知識や経験、言語聴覚士としての専門性を活かし、精進してまいりたいと思います。

●患者様、ご家族様へ●

お怪我やご病気をされてから間もない時期での事前訪問にご協力頂き、ありがとうございます。

入院生活は、患者様も支えるご家族様も大変なご苦労があることと理解しております。

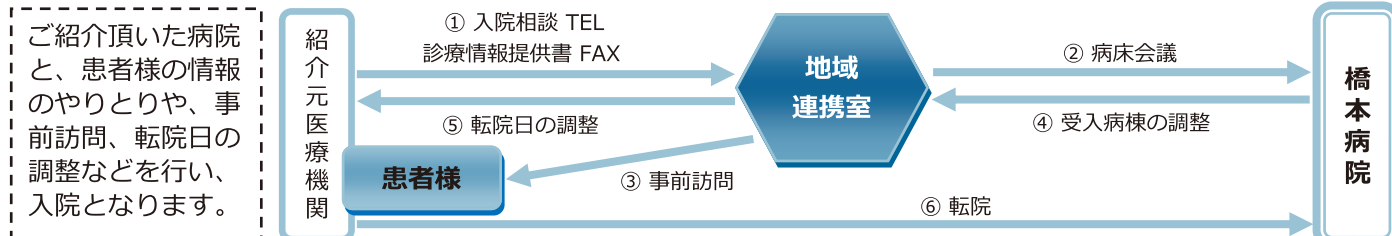
患者様には安心して橋本病院での治療が受けられるよう、またご家族様には、安心してお任せ頂けるよう、事前訪問や見学の際には丁寧に説明を差し上げるよう努めてまいります。

●他医療機関の皆様へ●

これまでの連携を維持し、さらには強化できるよう努めてまいります。

橋本病院について、当院の回復期リハビリテーション病棟について、リハビリについてなど、ご不明な点、ご興味のある点がありましたらお答え致します。いつでもお声掛けください。

今後とも、患者様に円滑な治療の提供が行えるよう、ご協力のほど宜しくお願い致します。



コグニサイズ

認知症予防キャラバン：「脳きらり教室」

2019年8月16日 財田町国保高齢者福祉支援センター / 8月23日 山本町保健センター

「脳きらり教室」でコグニサイズの紹介を行ってきました。コグニサイズは、コグニション（認知）と、エクササイズ（運動）を組み合わせることで出来た新しいエクササイズです。頭を使う認知課題と、体を使う運動課題を同時に行うことで、脳の機能を活性化し、認知症の予防と健康促進を目指すと言われていて、香川県でも推奨しています。各市町村でも教室を行っていますので、機会があればご参加ください。



日本病院学会

第69回日本病院学会

会期：2019年8月1日（木）・2日（金）

会場：札幌コンベンションセンター / 札幌市産業振興センター

『認知症病棟における「全員出勤日」の試み～発想の転換～』 看護師 宮本 美恵子



日本病院学会は昭和26年6月に創設、全国で2484病院（2019.6）が参加の広範な組織です。今回機会を得て、当院の認知症病棟での取り組みについて発表させて頂きました。

全国デイ・ケア研究大会

第40回全国デイ・ケア研究大会2019 in 宮崎

会期：2019年7月12日（金）～7月13日（土） 会場：宮崎観光ホテル

『要介護高齢者における栄養指標と身体機能との関係性の一考察
～当通所利用者を対象とした検討～』 理学療法士 松本 猛



全国の事業所による様々な取り組みを知る事ができ、多くの事を学ばせて頂きました。介護報酬改定など変化する社会の中、当通所でも様々な取り組みをしていければと思います。

職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師
介護福祉士・介護職
※ 常勤で働ける方



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。
<http://www.wafukai-hashimoto.jp>
TEL 0875-63-3311（人事担当：安藤）

医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL：0875-63-3311
FAX：0875-63-2651
入院相談直通電話：0875-63-3552
E-mail：wafukai@gaea.ocn.ne.jp
HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
発行元：橋本病院 広報委員会

回復期リハビリテーション病棟 89床
認知症治療病棟 67床

橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

